

2014/3/16

## 柏の景気情報（平成27年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成27年2月分）

○ 調査期間 : 平成27年2月18日 ~ 2月27日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	81	51.9%
建設	44	21	47.7%
製造	33	19	57.6%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成27年2月の調査結果のポイント】

### ◀業況DIは改善するも、先行きは引き続き慎重な見方が続く▶

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.5(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が5.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.0(同▲54.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲28.5(同▲20.0)である。

【建設業】からは、「省エネ住宅エコポイントがスタートし、好転を期待」(一般土木建築工事業)、「昨年よりも仕事量が減っているように思える」(土木工事業)、「停滞時期。先の見通しが立てにくい。リフォームが好調なのに比べ、新築は不調」(電気工事業)、「毎度のことながら、2月、8月は景況が悪化。畳小物、畳縁(ヘリ)バックの売り行きだけが微増しているのが救いです」(内装工事業)、「仕事量は昨年ほどではないが悪くはない。資金繰りは心配していない」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「今いち設備投資をする根拠が見つからない」(印刷業)、「テレビドラマによる当社及び業界の注目度は4月からは減少する見込みであるが、業況に対する影響は不透明」(酒類製造業)、「1月と同様売上高減少」(その他の金属製品製造業)、「前期は、消費税の駆け込み需要があったが、今年はその分減少した」(紙製容器製造業)、「経営上、運転資金の借り入れは生産性が無く、利益を削ってしまうところがある。先ずは、新しく借金を生まず借金を減少させる改善に取り組んでいる」(印刷業)、「競争が増え、競争が少しずつ激しくなりつつあります」(電子応用装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前年は消費税増税前の駆け込み需要が化粧品・宝飾・時計など高額品に顕著であり、本年は反動を想定していたものの、宝飾・時計等の高額品は前年並みに推移。婦人衣料や雑貨は、冬物衣料品処分の動きは悪い一方で、春物の動きが良く全体を押し上げている。動員は前年大雪の影響から本年は好調に推移」(百貨店)、「冬物処分は好調だが、春物の出足はあまり良くない。特にシーズンはじめに出る高額品が不調。売上金額的には冬物処分で帳尻が合った感じ」(婦人・子供服小売業)、「2月は天候に左右されず前年並み。しかし、3月はビルのリニューアルにより、相当数の店舗が改装するため、来客数の落ち込みがありそう。現在も、デフレ基調から抜け出せず、価格交渉により採算は前年と変わらず苦戦中」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「昨年と比べてお客様数は変わらないですが、客単価が低くなり売上が減少」(菓子・パン小売業)、「青果物の動きは、春一番、三寒四温を迎える時期になり、桃の節句や梅まつりなど消費拡大ができるチャンスだと思います。産地との連携や今後の引き合いが強まる予想もありますので、買出し人等のニーズに応えられるよう創意工夫していきます。しかし、一部の商材は品薄となっていて難しい局面もあります。卸売市場として、需要と供給に合わせた入荷取りきに努力していきます」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「2月は1年間で一番暇な時ですが、予想に無かった客数の増加がありました。「前年同月」より売上は増加。その理由は不明。お客様の高齢化で先々不安であるが、皆さん元気です。女性客だけの来店も多く見られました」(酒場・ビヤホール)、「衣料品、食材、食品全てが値上がり。柏の葉(十余二小周辺)のゴルフ練習場の取り壊しが始まり、跡地の大型店舗について近隣町会に説明がありました」(その他の飲食料品小売業)、「法人需要では、北陸方面の職場旅行が人気。10周年、20周年などの周年に当たり、職場旅行を国内から海外に変更する引き合いが増えている。個人需要では、9月のシルバーウィークが大人気。特にハワイは既にいっぱい。少数ではあるが、政情不安の影響で海外旅行をキャンセルする人も出ている。GWの沖縄と北陸、大阪のテーマパークが人気」(旅行業)、「1月から問い合わせ件数が増えています。特に法人からの反響、相続に関する問い合わせの増加です。成約件数も徐々に増えつつあります」(不動産管理業)、「東口の駅前ホテルから無くなり、街の活性化などはほど遠いです。街づくりの根本が理解される時です」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎原材料費高騰

「昨年は売れる時期に大雪でだめでしたが、今年は天候に恵まれ取り戻しました。しかし材料の値上げは止まりません。特にチョコレートは大幅値上げです」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎人手不足

「年度末、駆け込み受注が多く、新年度設備投資事業の受注に不安がある。人材不足がまだまだ続き、社内社員の稼働の負担となっている」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎実感なき景気回復

「小売店には景気上向きの実感がない。再増税の先延ばしの間は右肩下がりやストップしたい」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲26.8	▲4.1	▲25.0	▲59.2	▲6.6
10月	▲21.6	±0.0	▲11.7	▲55.5	▲6.6
11月	▲28.7	▲9.5	▲25.0	▲53.5	▲13.3
12月	▲32.1	▲15.3	▲22.2	▲68.0	▲13.3
1月	▲24.3	▲20.0	±0.0	▲54.1	▲13.3
2月	▲18.5	▲28.5	▲5.2	▲32.0	±0.0
見通し	▲14.8	▲4.7	▲10.5	▲32.0	▲6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.5(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が5.8ポイント縮小した。

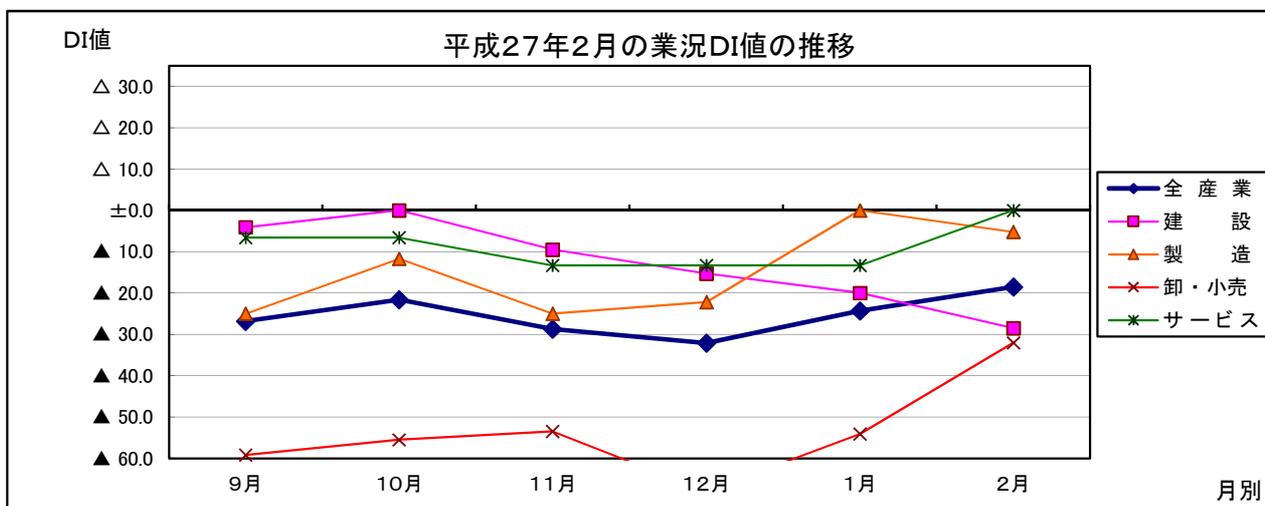
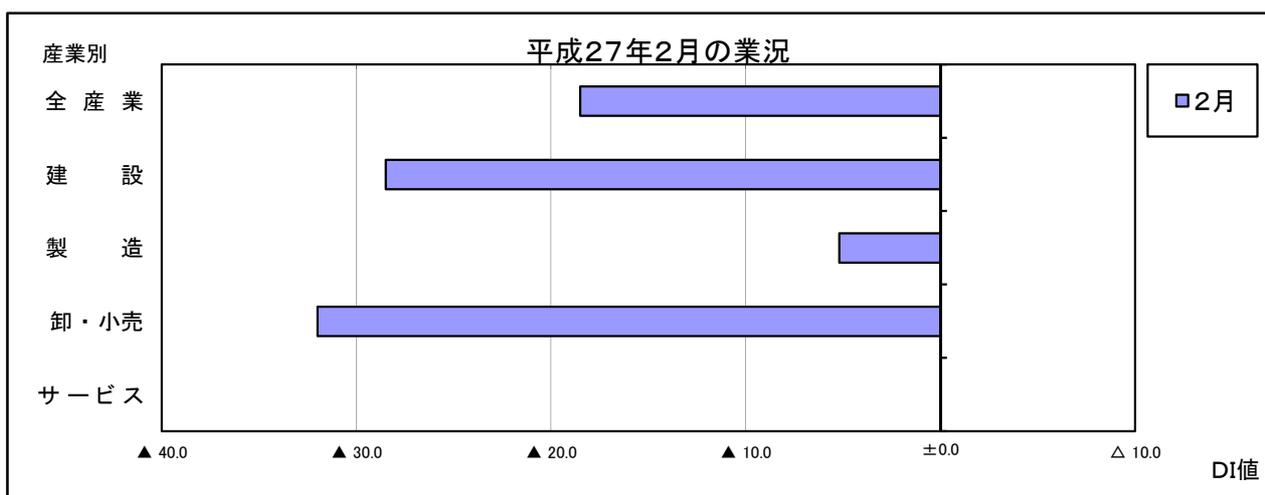
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.0(同▲54.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲5.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲28.5(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.8(前月水準▲18.2)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲20.0)、建設業▲4.7(同▲16.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲10.5(同▲5.5)、卸小売業▲32.0(同▲29.1)である。

平成27年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲26.8	▲21.6	▲28.7	▲32.1	▲24.3	▲18.5	▲14.8(▲18.2)
建設	▲4.1	±0.0	▲9.5	▲15.3	▲20.0	▲28.5	▲4.7(▲16.0)
製造	▲25.0	▲11.7	▲25.0	▲22.2	±0.0	▲5.2	▲10.5(▲5.5)
卸・小売	▲59.2	▲55.5	▲53.5	▲68.0	▲54.1	▲32.0	▲32.0(▲29.1)
サービス	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲13.3	▲13.3	±0.0	▲6.2(▲20.0)



【平成27年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.5(前月水準▲32.9)となり、マイナス幅が19.4ポイント縮小した。

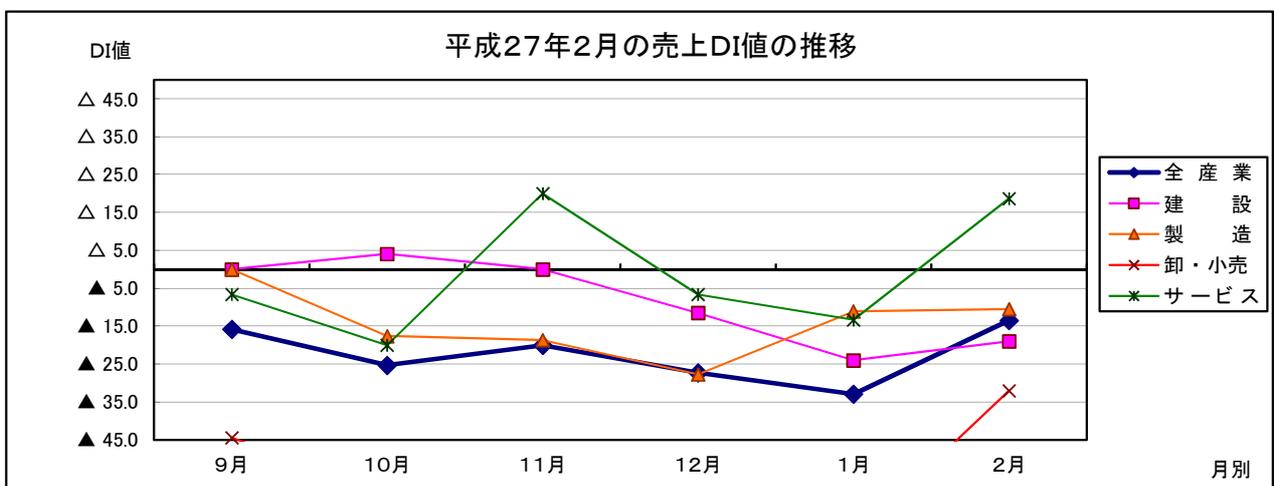
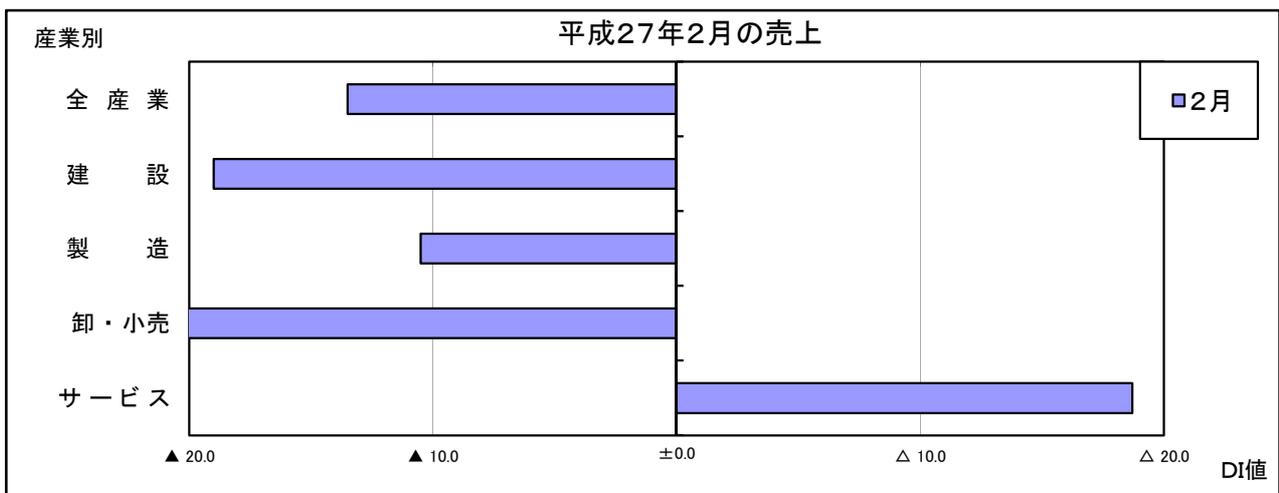
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△18.7(▲13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.0(同▲70.8)、建設業▲19.0(同▲24.0)、製造業▲10.5(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲1.2)となり、マイナス幅が8.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△9.5(同△16.0)、サービス業△6.2(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲10.5(同△11.1)であり、▲21.6ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.0(同▲33.3)である。

平成27年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲15.8	▲25.3	▲20.0	▲27.3	▲32.9	▲13.5	▲9.8(▲1.2)
建設	±0.0	△4.1	±0.0	▲11.5	▲24.0	▲19.0	△9.5(△16.0)
製造	±0.0	▲17.6	▲18.7	▲27.7	▲11.1	▲10.5	▲10.5(△11.1)
卸・小売	▲44.4	▲59.2	▲57.1	▲56.0	▲70.8	▲32.0	▲36.0(▲33.3)
サービス	▲6.6	▲20.0	△20.0	▲6.6	▲13.3	△18.7	△6.2(△6.6)



【平成27年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.5(前月水準▲39.0)となり、マイナス幅が20.5ポイント縮小した。

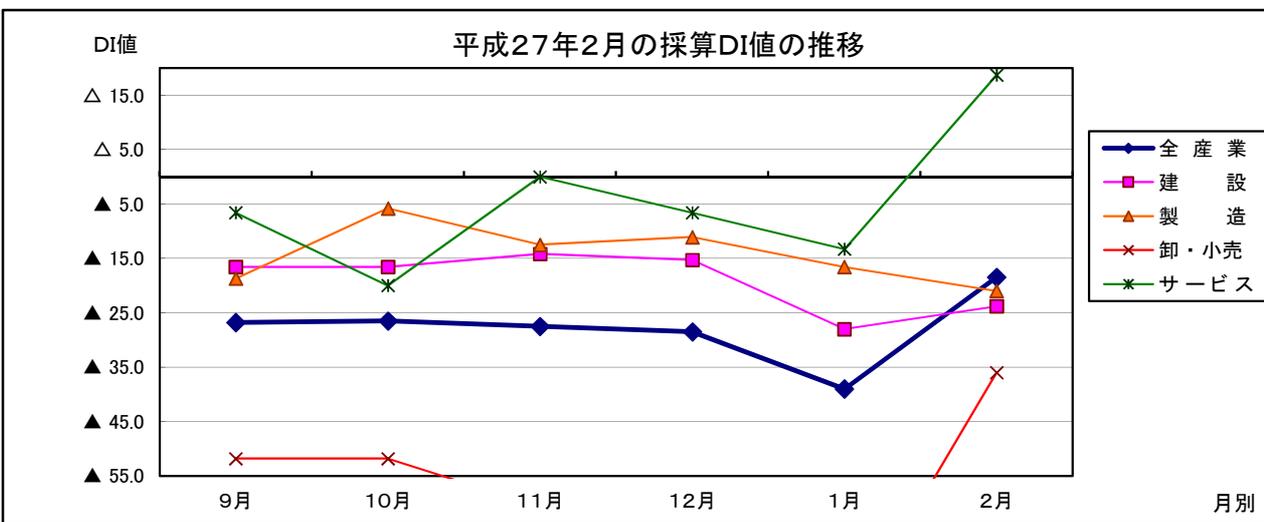
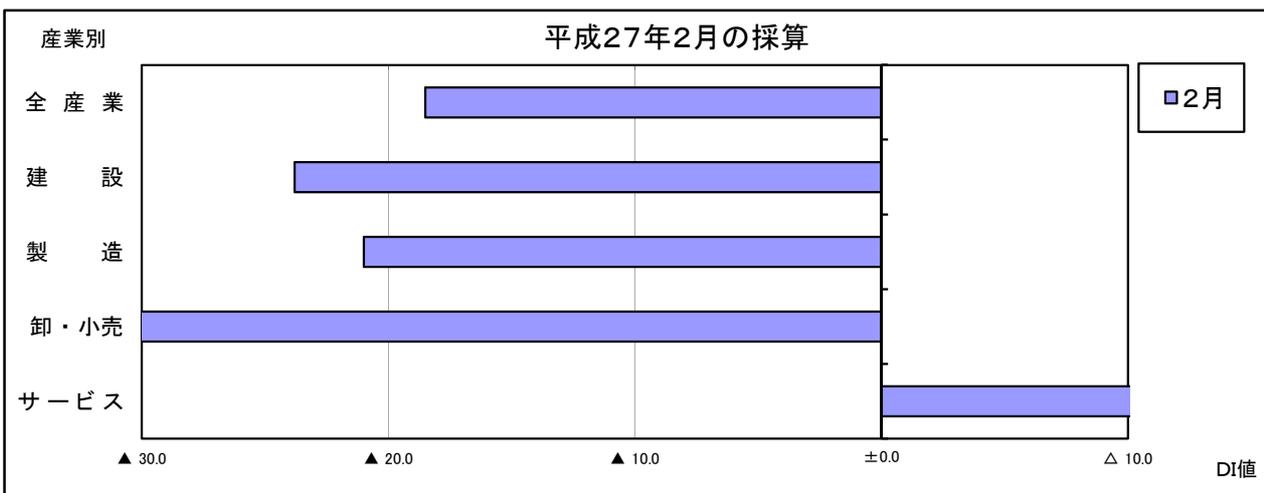
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△18.7(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.0(同▲83.3)、建設業▲23.8(同▲28.0)であり、卸小売業では、マイナス幅が47.3ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲21.0(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.9(前月水準▲18.2)となり、マイナス幅が2.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36.0(同▲50.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲4.7(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.3(同▲11.1)、サービス業▲12.5(▲6.6)である。

平成27年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲26.8	▲26.5	▲27.5	▲28.5	▲39.0	▲18.5	▲20.9(▲18.2)
建設	▲16.6	▲16.6	▲14.2	▲15.3	▲28.0	▲23.8	▲4.7(±0.0)
製造	▲18.7	▲5.8	▲12.5	▲11.1	▲16.6	▲21.0	▲26.3(▲11.1)
卸・小売	▲51.8	▲51.8	▲60.7	▲68.0	▲83.3	▲36.0	▲36.0(▲50.0)
サービス	▲6.6	▲20.0	±0.0	▲6.6	▲13.3	△18.7	▲12.5(▲6.6)



【平成27年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.9(前月水準▲39.0)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

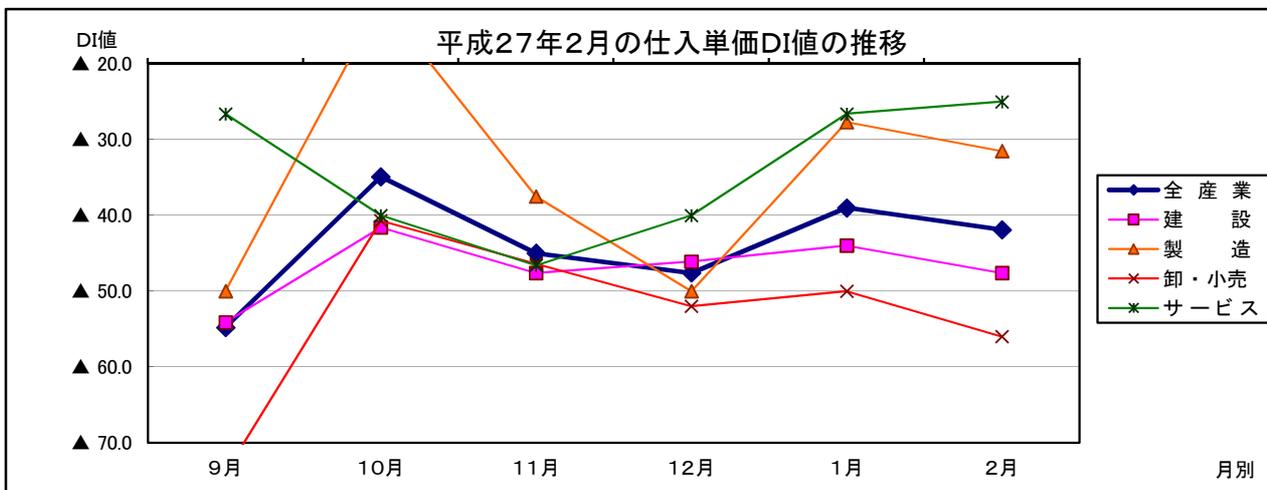
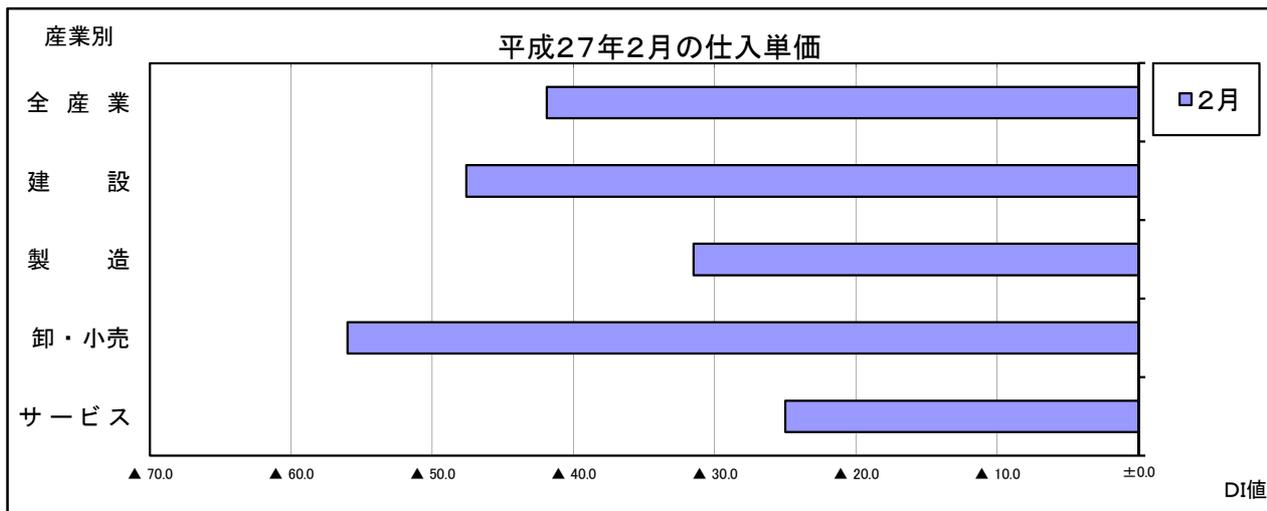
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲25.0(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.0(同▲50.0)、製造業▲31.5(同▲27.7)、建設業▲47.6(同▲44.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.3(前月水準▲31.7)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.5(同▲36.0)、製造業▲15.7(同▲22.2)、サービス業▲18.7(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲44.0(同▲41.6)である。

平成27年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 54.8	▲ 34.9	▲ 45.0	▲ 47.6	▲ 39.0	▲ 41.9	▲ 28.3 ( ▲ 31.7 )
建設	▲ 54.1	▲ 41.6	▲ 47.6	▲ 46.1	▲ 44.0	▲ 47.6	▲ 28.5 ( ▲ 36.0 )
製造	▲ 50.0	▲ 11.7	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 27.7	▲ 31.5	▲ 15.7 ( ▲ 22.2 )
卸・小売	▲ 74.0	▲ 40.7	▲ 46.4	▲ 52.0	▲ 50.0	▲ 56.0	▲ 44.0 ( ▲ 41.6 )
サービス	▲ 26.6	▲ 40.0	▲ 46.6	▲ 40.0	▲ 26.6	▲ 25.0	▲ 18.7 ( ▲ 20.0 )



【平成27年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△6. 1(前月水準△2. 4)となり、プラス幅が3. 7ポイント拡大した。

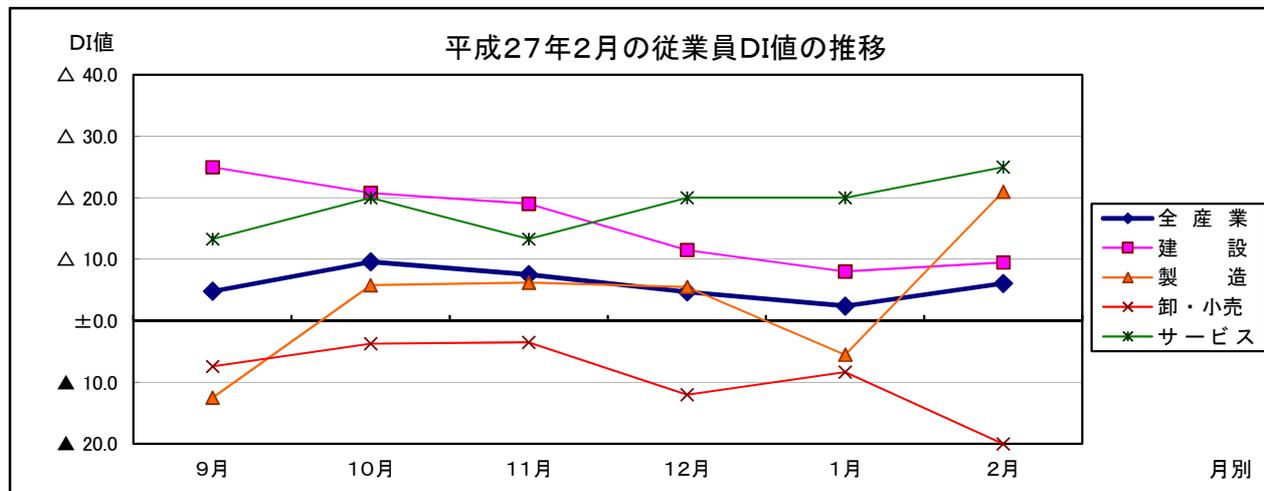
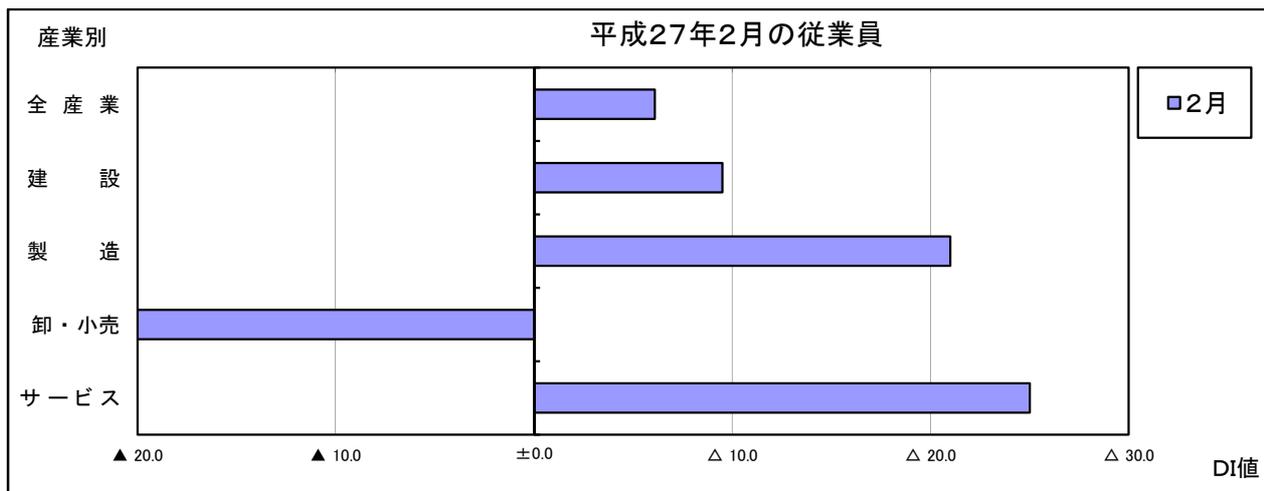
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△25. 0(同△20. 0)、建設業△9. 5(同△8. 0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△21. 0(同▲5. 5)であり、26. 5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲20. 0(同▲8. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△8. 6(前月水準△4. 8)となり、プラス幅が3. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△21. 0(同±0. 0)、サービス業△31. 2(同△20. 0)、建設業△9. 5(同△8. 0)であり、特に、製造業はプラス幅が、21. 0ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲16. 0(同▲4. 1)である。

平成27年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△4.8	△9.6	△7.5	△4.7	△2.4	△6.1	△8.6(△4.8)
建設	△25.0	△20.8	△19.0	△11.5	△8.0	△9.5	△9.5(△8.0)
製造	▲12.5	△5.8	△6.2	△5.5	▲5.5	△21.0	△21.0(±0.0)
卸・小売	▲7.4	▲3.7	▲3.5	▲12.0	▲8.3	▲20.0	▲16.0(▲4.1)
サービス	△13.3	△20.0	△13.3	△20.0	△20.0	△25.0	△31.2(△20.0)



【平成27年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.3(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。

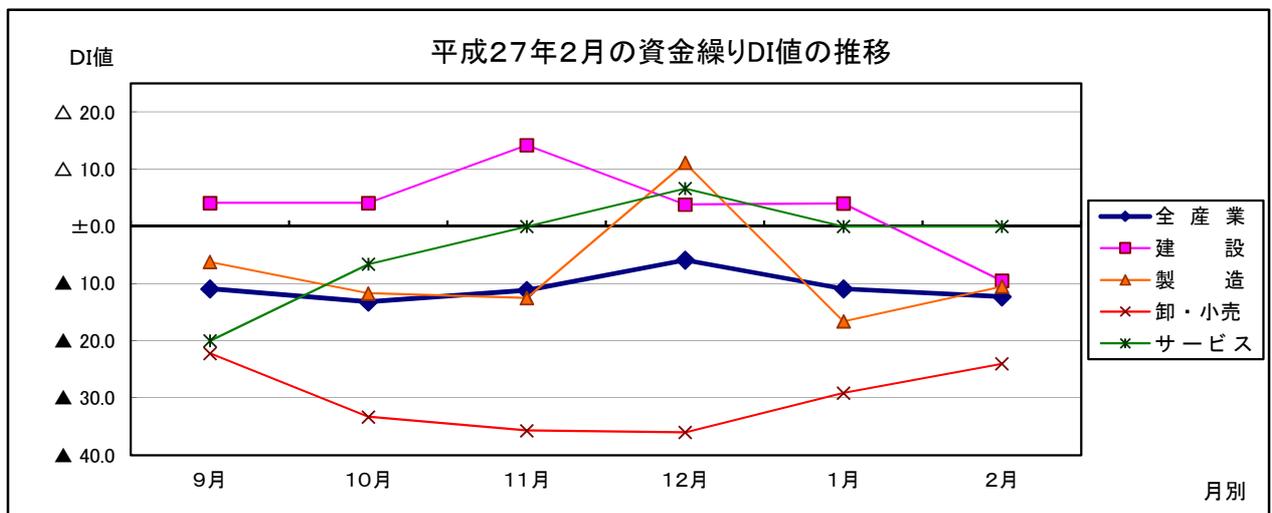
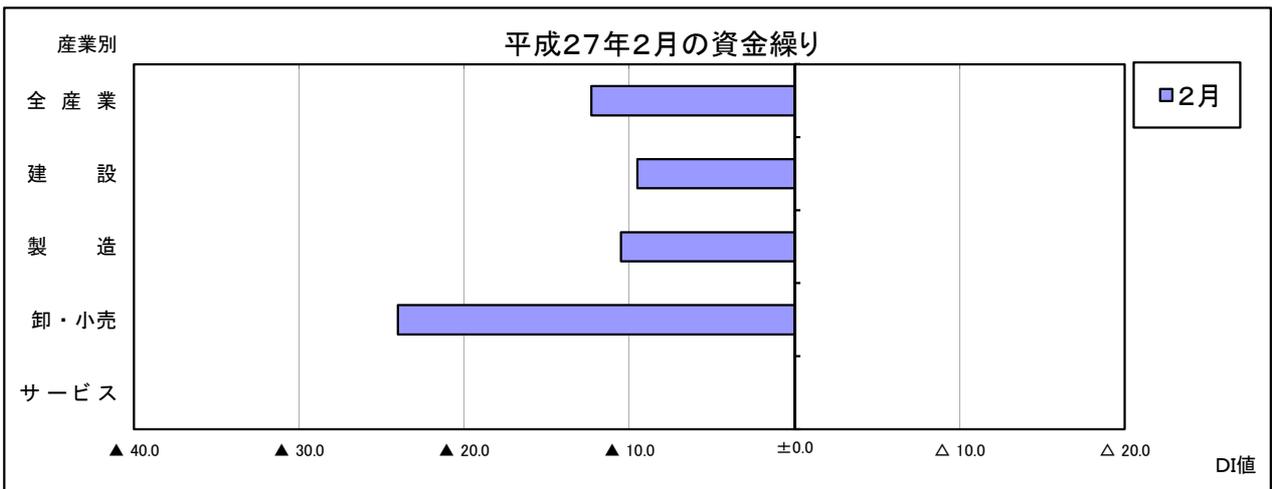
業種別では、前月水準と比べてマイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲10.5(同▲16.6)、卸小売業▲24.0(▲29.1)である。変わらない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.5(同△4.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.8(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が3.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△4.7(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.0(同▲20.8)、サービス業▲12.5(▲6.6)、製造業▲21.0(▲16.6)である。

平成27年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 9月	10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲10.9	▲13.2	▲11.2	▲5.9	▲10.9	▲12.3	▲14.8(▲10.9)
建設	△4.1	△4.1	△14.2	△3.8	△4.0	▲9.5	△4.7(±0.0)
製造	▲6.2	▲11.7	▲12.5	△11.1	▲16.6	▲10.5	▲21.0(▲16.6)
卸・小売	▲22.2	▲33.3	▲35.7	▲36.0	▲29.1	▲24.0	▲28.0(▲20.8)
サービス	▲20.0	▲6.6	±0.0	△6.6	±0.0	±0.0	▲12.5(▲6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 13.5	▲ 9.8	▲ 18.5	▲ 20.9	▲ 41.9	▲ 28.3	△ 6.1	△ 8.6
建設	▲ 19.0	△ 9.5	▲ 23.8	▲ 4.7	▲ 47.6	▲ 28.5	△ 9.5	△ 9.5
製造	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 31.5	▲ 15.7	△ 21.0	△ 21.0
卸・小売	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 36.0	▲ 36.0	▲ 56.0	▲ 44.0	▲ 20.0	▲ 16.0
サービス	△ 18.7	△ 6.2	△ 18.7	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 18.7	△ 25.0	△ 31.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.5	▲ 14.8	▲ 12.3	▲ 14.8
建設	▲ 28.5	▲ 4.7	▲ 9.5	△ 4.7
製造	▲ 5.2	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 21.0
卸・小売	▲ 32.0	▲ 32.0	▲ 24.0	▲ 28.0
サービス	±0.0	▲ 6.2	±0.0	▲ 12.5

【平成27年2月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	省エネ住宅エコポイントがスタートし、好転を期待。	省エネ住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	昨年よりも仕事量が減っているように思える。	仕事量減少	土木工事業
	停滞時期。先の見通しが立てにくい。リフォームが好調なのに比べ、新築は不調。	先行き不透明 リフォーム好調 新築不調 業況停滞	電気工事業
	毎度のことながら、2月、8月は景況が悪化。畳小物、畳縁(ヘリ)バックの売り行きだけが微増しているのが救いです。	景況悪化	内装工事業
	仕事量は昨年ほどではないが悪くはない。資金繰りは心配していない。	仕事量安定	その他の職別工事業
製造業	今いち設備投資をする根拠が見つからない。	設備投資	印刷業
	テレビドラマによる当社及び業界の注目度は4月からは減少する見込みであるが、業況に対する影響は不透明。	テレビドラマ効果	酒類製造業
	1月と同様売上高減少。	売上減少	その他の金属製品製造業
	前期は、消費税の駆け込み需要があったが、今年はその分減少した。	増税後の反動減	紙製容器製造業
	経営上、運転資金の借入れは生産性が無く、利益を削ってしまうところがある。先ずは、新しく借金を生まず借金を減少させる改善に取り組んでいる。	運転資金の借入れ	印刷業
	競合が増え、競争が少しづつ激しくなりつつあります。	競争激化	電子応用装置製造業
卸小売	前年は消費税増税前の駆け込み需要が化粧品・宝飾・時計など高額品に顕著であり、本年は反動を想定していたものの、宝飾・時計等的高額品は前年並みに推移。婦人衣料や雑貨は、冬物衣料品処分の動きは悪い一方で、春物の動きが良く全体を押し上げている。動員は前年大雪の影響から本年は好調に推移。	高額品売上好調 冬物衣料苦戦 春物衣料好調 来客数好調	百貨店
	冬物処分は好調だが、春物の出足はあまり良くない。特にシーズンはじめに出る高額品が不調。売上金額的には冬物処分で帳尻が合った感じ。	冬物衣料処分好調 春物衣料(出だし)不調	婦人・子供服小売業
	2月は天候に左右されず前年並み。しかし、3月はビルのリニューアルにより、相当数の店舗が改装するため、来客数の落ち込みがありそう。現在も、デフレ基調から抜け出せず、価格交渉により採算は前年と変わらず苦戦中。	売上前年並み 来客数減少見込み デフレ基調 不採算	時計・眼鏡・光学機械小売業
	小売店には景気上向きの実感がない。再増税の先延ばしの間に右肩下がりやをストップしたい。	実感なき景気回復 再増税先延ばし	その他の各種商品小売業

【平成27年2月の業種別業界内トピックス】

	昨年と比べてお客様数は変わらないですが、客単価が低くなり売上が減少。	客数横ばい 客単価減少	菓子・パン小売業
	青果物の動きは、春一番、三寒四温を迎える時期になり、桃の節句や梅まつりなど消費拡大ができるチャンスだと思えます。産地との連携や今後の引き合いが強まる予想もありますので、買出し人等のニーズに応えられるよう創意工夫していきます。しかし、一部の商材は品薄となっていて難しい局面もあります。卸売市場として、需要と供給に合わせた入荷取りに努力していきます。	桃の節句、梅まつり 消費拡大の好機 一部商品の品薄	食料・飲料卸売業
	昨年は売れる時期に大雪でだめでしたが、今年は天候に恵まれ取り戻しました。しかし材料の値上げは止まりません。特にチョコレートは大幅値上げです。	売上好調 原材料費高騰	菓子・パン小売業
サービス	2月は1年間で一番暇な時ですが、予想に無かった客数の増加がありました。「前年同月」より売上は増加。その理由は不明。お客様の高齢化で先々不安であるが、皆さん元気です。女性客だけの来店も多く見られました。	客数増加 売上増加 先行き不安	酒場・ビヤホール
	衣料品、食材、食品全てが値上がり。柏の葉(十余二小周辺)のゴルフ練習場の取り壊しが始まり、跡地の大型店舗について近隣町会に説明がありました。	仕入単価(生鮮品)上昇	その他の飲食料品小売業
	法人需要では、北陸方面の職場旅行が人気。10周年、20周年などの周年に当たり、職場旅行を国内から海外に変更する引き合いが増えている。個人需要では、9月のシルバーウィークが大人気。特にハワイは既にいっぱい。少数ではあるが、政情不安の影響で海外旅行をキャンセルする人も出ている。GWの沖縄と北陸、大阪のテーマパークが人気。	職場旅行好調 シルバーウィーク ゴールデンウィーク	旅行業
	1月から問い合わせ件数が増えています。特に法人からの反響、相続に関する問い合わせの増加です。成約件数も徐々に増えつつあります。	問い合わせ増加 成約件数増加	不動産管理業
	東口の駅前ホテルから無くなり、街の活性化などはほど遠いです。街づくりの根本が理解される時です。	駅前ホテル 街の活性化	不動産賃貸業
	年度末、駆け込み受注が多く、新年度設備投資事業の受注に不安がある。人材不足がまだまだ続き、社内社員の稼働の負担となっている。	年度末駆け込み需要 人材不足	ソフトウェア業

◎原材料費高騰

去年は売れる時期に大雪でだめでしたが、今年は天候に恵まれ取り戻しました。しかし材料の値上げは止まりません。特にチョコレートは大幅値上げで菓子・パン小売業

◎人手不足

年度末、駆け込み受注が多く、新年度設備投資事業の受注に不安がある。人材不足がまだ続き、社内社員の稼働の負担となっている。ソフトウェア業

◎実感なき景気回復

小売店には景気上向きの実感がない。増税の先延ばしの間に右肩下がりをストップしたい。その他の各種商品小売業

## 平成27年2月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.5に対し、「CCI-LOBO」が▲21.7で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.1で柏の方がマイナス幅が5.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。柏の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.5に対し、「CCI-LOBO」が▲23.7で柏の方がマイナス幅が5.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲41.9に対し、「CCI-LOBO」が▲42.5で、柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△6.1に対し、「CCI-LOBO」が△12.8で柏の方がプラス幅が6.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.3に対し、「CCI-LOBO」が▲12.7で柏の方がマイナス幅が0.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。変わらない業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

# 平成27年2月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 18.5	 ▲ 28.5	 ▲ 5.2	 ▲ 32.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 21.7	 ▲ 9.4	 ▲ 14.9	 ▲ 43.5	 ▲ 12.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 13.5	 ▲ 19.0	 ▲ 10.5	 ▲ 32.0	 △ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 19.1	 ▲ 3.8	 ▲ 12.2	 ▲ 38.2	 ▲ 11.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 18.5	 ▲ 23.8	 ▲ 21.0	 ▲ 36.0	 △ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 23.7	 ▲ 13.2	 ▲ 19.6	 ▲ 41.0	 ▲ 16.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 41.9	 ▲ 47.6	 ▲ 31.5	 ▲ 56.0	 ▲ 25.0
CCI-LOBO	 ▲ 42.5	 ▲ 51.5	 ▲ 39.8	 ▲ 46.9	 ▲ 34.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 6.1	 △ 9.5	 △ 21.0	 ▲ 20.0	 △ 25.0
CCI-LOBO	 △ 12.8	 △ 20.4	 △ 6.8	 △ 15.2	 △ 17.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.3	 ▲ 9.5	 ▲ 10.5	 ▲ 24.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.7	 ▲ 10.2	 ▲ 10.5	 ▲ 22.8	 ▲ 8.6

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成27年2月13日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が3153企業  
組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、2カ月連続改善。先行きも持ち直し見込みも、慎重な見方が残る

2月の全産業合計の業況DIは、▲21.7と、前月から+4.2ポイントの改善。原油安の恩恵が幅広い業種に広がる中、米国・中国向けをはじめとする自動車・電子部品などの輸出増や、外国人観光客の増加を背景に、中小企業の景況感は持ち直しに向けた動きがみられる。ただし、春節を迎え、中国などからの外国人観光客が大幅に伸びた都市部での回復が全体を押し上げており、地方の中小企業においては、コスト増加分の価格転嫁遅れや個人消費の鈍さが業況改善の足かせとなる状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.4（今月比+2.3ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。大手企業の賃上げなどを背景とする消費の持ち直しや、円安に伴う取引先の海外生産・調達の国内シフトを期待する声が聞かれるなど、一部で明るさが伺える。他方で、多くの中小企業では、価格転

嫁の遅れによる収益圧迫が続く中、先行きへの不安が払拭できておらず、慎重さが残る。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「来年度に複数のメーカーで新工場の建設が予定されており、受注増が期待できる」（一般工事業業）、「円安に伴う輸入コストの増大から、型枠用合板の価格が昨年に比べ1割以上も上昇している」（建築工事業業）、「足元の受注は堅調なもの、公共工事が減少しつつあり、先行きが心配」（電気工事業業）

【製造業】「ガソリン価格の下落に伴い、運送費などの経費が抑えられ、業況の好転につながっている」（畜産食料品製造業）、「引き合いは多いが、溶接工が不足しているため、対応しきれない」（製缶板金業）、「取引先が調達の一部を国内に切り替えた。今のところ受注に大きな変化はないが、今後の動向を注視したい」（産業機械部品製造業）

【卸売業】「仕入コスト増加

分を一部転嫁した結果、受注が減少。顧客離れを招くため、これ以上の転嫁は難しい」（農産物卸売業）、「大手企業の業績改善に伴う受注増を見越し、運搬車両を燃費性能の良いものに入れ替る予定」（建築資材卸売業）、「3〜4月にかけて、冷凍食品の値上げが予定されており、採算が厳しくなる見込み」（食料品卸売業）

【小売業】「気温の上昇とともに春物衣料に動きがみられたほか、バレンタイン商戦では、高級ブランドに人気が集まった」（百貨店）、「若手の整備士が待遇の良い同業他社に転職することが増えており、賃金などへの対応に苦慮している」（自動車販売店）、「外国人観光客のお土産として日本茶の需要が高まっており、空港などへの販路開拓を進める」（茶類・菓子小売業）

【サービス業】「コスト増加分の転嫁が難しいため、梱包など運送以外の作業もあわせて受注することで、売上増を図っている」（運送業）、「春休みやゴールデンウィークに向けて、集客増を図るため、新規メニューの開発などを検討中」（飲食店）、「北陸新幹線の開業を控え、予約などの問

い合わせが相次いでいる」（旅館業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲24.2	▲10.4	▲13.1	▲30.5	▲42.2	▲24.9
10月	▲24.5	▲11.3	▲11.3	▲34.3	▲44.0	▲22.8
11月	▲26.0	▲10.2	▲18.8	▲34.6	▲46.9	▲20.0
12月	▲29.7	▲9.4	▲23.6	▲40.5	▲48.7	▲26.0
1月	▲25.9	▲14.4	▲17.5	▲30.5	▲48.2	▲19.2
2月	▲21.7	▲9.4	▲14.9	▲29.8	▲43.5	▲12.9
見通し	▲19.4	▲17.5	▲8.1	▲28.0	▲38.0	▲11.0